04年サケ．マス

単位：数量，1000トン、価格，円／kg

年	漁獲(生産) サケ	マス	養ギン	輸入 生冷	輸出 生冷	消費地 生	冷	塩蔵	消費支出 生(グラム)	塩(グラム)	在庫	日露漁獲協定	アキサケ	北海道	本州
15	265	23	9.2	215.5	63.9	25.1	67.1	47.7	3,095	1,885	113.8	5.8	257.5	215.7	41.8
16	246	15	9.8	239.5	61.4	24.1	66.3	46.8	3,256	1,817	109.4	6.9	239.4	194.3	45.2
%	93	65	107	111	96	96	99	98	105	96	96	119	93	90	108

年	秋サケ	北海道	本州	輸入	輸出	消費地 生	冷	塩蔵	消費支出 生(円)	塩(円)
15	160	157	173	471	116	617	514	671	3,972	2,302
16	214	219	192	430	148	641	490	654	3,894	2,244
%	134	139	111	91	128	104	95	97	98	97

漁　獲　量

16年の北洋サケマス漁業は、ロシア200海里枠が中型船3,470トン（前年4,120トン）、小型船3,380トン（前年1,650トン）で中型船減少、小型船増加となった。入漁料は中型・小型とも292.5円/kgで前年並みであった。また、漁況はベニ、トキが昨年よりやや増加、マスが前年並みであった。またオホーツク建マスは減少した。

日本200海里枠3,660トンで前年（カラフトマス主体4,100トン）を下回った。

秋サケ沿岸漁獲量は、北海道5,645万尾（前年5,658万尾）、本州1,371万尾（前年1,184万尾）、トン数では北海道19.4万トン（前年21.6万トン）、本州万4.52トン（前年4.18万トン）であった。

北海道では前年を下回ったものの２年続きの豊漁で、また本州でも主体の岩手県を始め引続き増加傾向がみられた。

価格は、北海道、本州とも漁が総じて好漁であったが、前半は時化も多く、サンマがやや少なかったこともあり、国内消化が順調で加えて輸出も高値と円高の割には順調であったこともあり、堅調相場が続いた。

魚体は、北海道3.50kg（前年3.82kg）、本州3.29kg(前年3.53kg)で、今年は北海道、本州とも前年より小型化した。

国内養殖銀ザケは、引続き1万トン（前年0.9万トン）程度であったがやや増加した。

輸　出　入

15年のサケマス輸入量は、24万トンで前年（21.6万トン）をやや上回った。

これは主に前年の養殖チリ銀が搬入のずれ込みがあり、結果的に増加したものである。

天然物の国別輸入量は（全てのサケマス類）、米国3.2万トン（前年2.8万トン）、カナダ0.7万トン（前年0.4万トン）、ロシア2.5万トン（前年2.7万トン）であった。

また、1999年初めて米国をぬいてトップにたったチリを始めノルウェー等各国からの養殖系サケ、は世界的に生産も伸びており、天然物との差も依然広がっている。しかし世界的な需要もそれに伴い年々大きくなっており、したがって、需要の伸びと各国の購買力の伸張の中で、日本の優位性も崩れつつある。本年の国別輸入量はチリ12.2万トンで前年の9.3万トンを上回ったが、ノルウェーは4.3万トンで、前年(4.8万トン)を下回った。またニュージーランド、デンマーク、オーストラリア等からの輸入も引き続きみられている。

輸入価格は、430円で本年は輸入増加の結果を受けて前年（471円）を下回った。

また、近年まとまった輸出がみられていたアキサケは本年も順調で、国内漁が好漁であったことや中国での買入価格の上昇もあって、為替円高にも拘わらず6.1万トンとほぼ前年(6.3万トン)並みの数量であった。

輸出先は、依然中国5万トン（前年約5.2万トン）で本年も80%以上で多くシェアは高かった。続いてタイ5,675トン、台湾2,050トン、韓国2,168トン、ロシア266トンであった。

総　供　給　量

本年は輸入量が再度養殖系の増加により増加したものの、国内秋サケ漁が前年をやや下回ったことや、期首在庫が少なかったこともあり、総供給量は、前年をやや下回る56万トンとなった。

	15年	16年	対比（%）
総供給量	575,000	556,300	97
沖獲漁獲量	9,800	10,500	107
秋サケ漁獲量	258,000	239,400	93
建マス漁獲量	16,400	8,500	52
ギンサケ漁獲量	9,200	9,800	107
輸入量	215,500	239,500	111
繰越在庫量	130,000	110,000	85
輸出	63,900	61,400	96

消　費　地　入　荷　量　と　価　格

サケの消費地入荷量は、生2.4万トン（前年2.5万トン）、冷6.6万トン（前年6.7万トン）、塩4.7万トン（前年4.8万トン）であった。

本年の入荷の特徴は、このところの安値浸透とフレッシュ需要もあって順調に伸びていた生鮮であったが、２年続けて減少した。また冷凍原料は輸入養殖物が順調搬入もあってほぼ前年並みであった。

順調に伸びてきた生秋サケは、切り身、生フィレーでの旬の販売がすっかり全国的に定着したものの、数量的にはやや停滞気味で本年も前年に続きやや減少した。しかし家計支出でみると生は前年を上回る伸びをみせた（市場外流通が増加している可能性もある）。また、製品である塩蔵物(切り身商材)は本年も減少し、家計支出でみてもやや減少傾向となっている。

価格は、生641円（前年617円）、冷490円（前年514円）、塩654円（前年671円）となった。

本年は産地では秋サケ魚価の戻しで前年を上回ったものの、消費地市場で生鮮が前年を上回ったのみで、冷凍、塩蔵は輸入養殖系の安値もあり、何れもやや弱かった。

また輸出価格は、東アジアの需要も強くなっており、前年（１１６円/kg）をかなり上回る１４８円/kgであった。